前回の振り返り（委員からいただいた主な意見と回答）　資料１

Ｎｏ.	主な意見	区の回答
1	「啓発」という言葉ではなく、「周知」という言葉を使用すべきではないか。計画書に掲載する際の言葉遣いについて、検討いただきたい。	「啓発」という言葉に限らず、全体的に計画書に使う文言については、今後調整していきます。素案では、「啓発」は可能な限り用いないよう、文章を検討いたしました。
2	３年では結果の出ない内容について、どのような工夫をしてくのか。	計画期間が３年のため、事業を都度ブラッシュアップするのかの兼ね合いで、そのまま着実に進めるべき事業、拡充すべき事業があると考えています。素案では、各施策の柱のもと、本計画期間中において重要度が高いと考える事業について重点事業とし、メリハリをつけて記載をしています。
3	福祉は因果関係を測定することが難しいため、ＥＢＰＭやロジックモデルなどアウトカム指標を使用していく流れになっている。３年で効果が出るものと効果がでないものがあるので、アウトカム指標を用いて効果を測定するのは良いと思う。	素案では、各施策の柱ごとに、アウトカム指標を設定し、お示ししています。 基本的に令和７年度に実施した板橋区高齢者ニーズ調査を始めとした実態調査の指標を用いてアウトカム指標を設定し、施策の効果を測っていく想定です。
4	各事業の指標や目標値について、前計画から必要に応じた見直しを行い、適切な指標をご検討いただきたい。	各事業について、「基本理念/基本方針/目標/施策の柱/設定したアウトカム指標」達成のために、どのような指標が適切か検討し、原案でお示しいたします。
5	施策の柱の名称について、例えば「見守り体制」「成年後見制度の利用促進」など、意味合いが狭くなってしまっていると感じる。また、居住支援はどの柱に紐づくのか気になる。	いただいたご意見を踏まえ、一部の施策の柱の名称を変更しました。 修正前：「高齢者の暮らしを支える見守り体制の充実」 修正後：「孤立を防ぎ、安心して暮らせる支援体制の充実」 施策の柱４では、「各種見守り支援」「居住支援」のほか、令和８年10月から事業実施予定の「終活支援事業」などの事業が紐づく予定であり、素案でお示ししています。
6	これまでのものは大事にしながら、現状の状況を踏まえ、これは強く進めていくというものを打ち出していけると良い。	ご意見を踏まえ、区が本計画期間で打ち出していく内容について、検討しました。 本計画では、「元気高齢者」が主体的に地域活動に参画したいと思えるような仕組みづくりを念頭に置きつつ、地域共生社会の実現に向けた中核的な基盤となる地域包括ケアシステムを推進するため、基本方針を「～高齢者参画型生きがい戦略～地域共生社会の実現に向けた地域包括ケアシステムの推進」と定め、「元気高齢者」に注目した取組を強く進めていきます。地域で活躍する「元気高齢者」が増加することで、要介護状態となる高齢者の減少や地域で支える多様な主体の活性化に寄与し、すべての区民の希望につながる社会をめざします。

※その他、骨子案についていただいたご意見などを踏まえ、骨子案をブラッシュアップし、8/26に議会（健康福祉委員会）に報告いたしました。